

希望

知っておきたいキリスト教のことば (51)

キリスト教のお葬式に出られたことはありますか。聖公会のお葬式では一般的に、牧師の首から下げるストールや聖卓や聖書台にかかっている布（祭色）には、白い色が使われます。この白には喜びという意味があります。わたしたちは愛する人との別れのときに悲しみの涙を流しますが、それと同時に、その方が神さまのみもとで憩っているという大きな希望に立って礼拝をしているのです。

旧約聖書には、希望を抱く人々の姿や詩が多く記されています。イスラエルの人々にとって、主の救いのみ手が差し伸べられることこそが大きな希望でした。また預言者は、救い主メシアが到来するという預言を繰り返します。

そしてその希望は、イエス様の降誕によって成就されます。神さまはイエス様をこの世に遣わすことによって、神さまと人間の間にできた溝を埋めてくださいました。神さまはイエス・キリストを救い主として受け入れ、信じる人たちに永遠の命を与えられたのです。

わたしたちは生きていますと、多くの苦しみや悲しみを経験し、ときには絶望の淵に立たされます。また、死に対する恐れにも包まれることでしょう。しかし神さまに出会い、イエス様と共に歩んでいるならば、何も怖くはないのです。死こそが新しい命への出発点なのだからです。

パウロは希望について、多くを語りました。それはパウロの時代、キリスト教徒が迫害を受け、とても苦しい毎日を送っていたことと関係があります。その中でパウロは信仰を固く持ち、希望を見失わずにたくさんの教会の信徒たちを励まし、そして彼らに希望を与え続けました。

そのパウロの言葉は今も生き、聖書を読むわたしたちに希望を与えてくれるのです。



次回は「救済」です。お楽しみに。